

令和7年度 熊本市精神保健福祉審議会 議事録

I 日 時：令和8年3月6日（金）午後1時30分～午後3時00分

II 場 所：ウェルパルクまもと3階すこやかホール

III 出席者：別紙参照

IV 事務局：熊本市健康福祉局障がい者支援部こころの健康センター

V 会議次第

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 会長・副会長選出

5 議 事

(1) 精神保健福祉事業報告について

(2) 自殺対策について

(3) 入院者訪問支援事業について

6 その他

7 閉 会

VI 議事（会長：森委員 副会長：古賀委員）

議題1 精神保健福祉事業報告について

事務局より説明資料に沿って説明

【宮内委員】資料30ページ、クリニックは50もあるのか？連携していかなければいけない。

事務局：内科などがメインでも心療内科など標榜していれば数に入っている。

【宮田委員】地域共生社会ビジョンとして、全ての人を巻き込んだ形で1人の障害をもった人を支えていこうとっている。厚労省は地域包括ケアシステムの考え方を精神障害「にも」とした。たくさんの人と連携して支えていこうというのは良いが、どの分野も専門家レベルに限られている。資料にあるようにゲートキーパー研修などいろいろされているがまだ専門家止まり。いかに地域の普通の方々に広げていくのが課題になるし、難しいところだと思っている。生活訓練事業所を手伝っており、障害の人たちのサービスにとどまらず、地域の方と具体的かつ日常的なつながりを持つ活動を行っているが、来られた方から精神障害とはなんですか？発達障害とはなんですか？と初歩的なことを聞かれる。こういうスタイルをどうやって

って具体的に直接かかわっているサービス事業者が地域とつながっていくということが地域共生社会ビジョン、地域包括ケア、にも包括に、一般化していくか。一般の方々にもどうやって広げていくか、裾野を広げる運動をテーマとしてもってほしい。

事務局：次期障がい福祉計画では、地域住民のこころの健康状態など精神分野についてもいろいろな対応が求められる予定である。市議会でも、ひきこもりや依存症について地域との連携を求められており、我々の力だけでなく、皆様にも理解いただいたうえで身近な精神障害の方に心を向けてもらう。そのために研修をどう行っていくか。自殺対策では、保護者向けに、依存症の出前講座では、小中学校でさせていただいたりしている。

【村上委員】にも包括やゲートキーパー研修など関心の深い問題であるが、我々家族のところまで届いていない。わたしたちにも理解できるようお願いしたい。
26ページの自立支援医療の不承認が増えている。なぜか。

事務局：詳細はわからないが、年金の不支給とは関係ない。確認して後日連絡する。

【西田委員】34ページのピアサポートの実績2件で2人というのは？以前やっていたときは体育館での啓発に何人かで参加していた。

事務局：確認して後日連絡する。

令和6年度熊本市こころの健康センター所報の修正あり
活動実人数 11（正）←2（誤）

【古賀副会長】4ページの電話相談の新規とは。

事務局：電話相談時には、皆様に初めての相談かどうかを確認している。

【古賀副会長】35ページの精神科救急情報センター事業の運営の課題は

【宮内委員】夜間と休日の電話になるが、同じ方が何度もかけたり、酔っぱらって相談員に絡むということもある。カスハラはやめてくださいというのをホームページに出し、そういう電話があったら切っても良いとしている。

【古賀委員】何度もかけてくるというのはその人の課題もあると思うので、そういったことを検討できるケース会議があればと思う。

【森会長】協会でも検討を。

【谷口委員】障がい者サポーターの育成を行っている。約1万人養成している。いろいろな障がいのことを話す、研修を受けた方とそうでない方では先入観が違う。受講された方はセンターにSOSを出していただきやすくなったり。障害年金に関しては、10件弱ほど相談があるが、未納などのケースが多いように思う。

議題2 自殺対策について

事務局より説明資料に沿って説明

【森会長】こどもの自殺を実際に減らすためには、教職員の方の自殺予防に関する育成が必要不可欠だと思う。

⇒ゲートキーパーは熊本市自殺総合対策計画に毎年250人養成していく計画になっているが、若者版ゲートキーパー研修を学校単位で受けていただく学校が増えているため、目標値を大きく超えている状況。また、今年度は小中学校の先生方向けにリモート研修を行い、400名ほどの先生方に受講いただいた。

【宮内会長】PTAや企業にも広げていくようになればより良いのでは。

【古賀副会長】こどもの自殺統計の詳細がわかるか

事務局：統計データを出す場合は個人が特定できないようにと国から言われている。熊本市のこどもの自殺者数は数が少ないので出してない。

【古賀副会長】熊本地震後、自殺が増えたので最近どうかと思っていた。カウンセリングが必要な児童が統計を見るとおり、地域にケアが必要なケースがあるので一緒にやっていたらと思う。

【宮田委員】これまでの関わりの中で、こどもは親に話を聞いて欲しかったと言うことが多いが、親はこどもの話を聞いてない。ひたすら聞くことで結果が出ると感じている。自殺対応も同じことではないかと考える。こどもに対する信頼、わかっているけど時間が足りない。支援者である周りの人の余裕が必要。

事務局：どれだけの時間をつくって接するか。年3回6時間のゲートキーパー研修を行っているが、多くの先生は時間がとれず、参加が難しい。市議会でも当センターと連携して、先生方の自殺対応力を少しでも高めていきたいとの答弁もあった。まず知ることがこども

の SOS を受け止めるための第一歩になると思うため、いかに発信していくかが今後の課題だと考えている。

議題 3 入院者訪問支援事業について

事務局より説明資料に沿って説明

【西田委員】4月から実際に動き出すような話でしたが、具体的にはどのくらい進んでいるのか。

事務局：令和8年4月に関係機関へ事業開始の文書発出し、対象者の募集を開始しようと考えているが、県と検討中。

【丸住委員】良い事業と思うが、日常的な困りごとの解消とあり、具体的にイメージがつきにくい。具体的にどんなことか。

事務局：実際どのような話が合っているか先行している北海道の札幌市でアンケートを取っているが、一番多いものは、世間話。趣味の話、入院生活に関する事など。実際具体的にどういった話をされているか詳細なところまでは把握してない。

【宮田委員】なんともない話が蓄積される。2012年当事者仲間と座談会をしたが、「どうでもいい話をいっぱいしたのが良かった」この制度に期待している。

【村上委員】この制度に期待しています。見ず知らずの人とコミュニケーションをとることは難しい。コロナやインフルもあり医療機関は大変と思う。支援員が介入することで入院患者と気心が知れ、家族のようにふれあいが出来るのではないかと。支援員が面会でしっかり関わるには経済的な支援も必要と考える。何人ぐらい実働されているのか。

事務局（所長より）：来年度は初年度になるので、訪問回数は利用希望がどの程度上がってくるかわからないが、本人または本人の希望で病院から来てほしいとの依頼を受けて訪問する。初年度は予算の確保が多くはない。実施は年1回程度で、今後については県とも調整していきたい。

この事業に関して、状況の確認や課題等を検討する推進会議の設置が求められている。事務局からの提案になるが、精神障害者の権利擁護を目的とした本事業の趣旨から、学識医療精神障害者の権利擁護に当たり、各種団体の知見をこの事業に生かしていきたいということもあるため、来年度からはこの審議会の後に、推進会議として開催をさせていただきたい。

いと考えているが、よろしいか。

【森会長】事務局の提案。推進会議は審議会を行った後にすることで、特にご意見なければ、皆さん賛成でよろしいか。

委員からの意見なし

【森会長】では、この件は事務局提案通りとさせていただく。
この他にご意見ある方はご発言をお願いしたい。

委員からの意見なし

【森会長】委員の皆様には、円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。
本日、委員の皆様から頂いた貴重なご意見をもとに、事務局には、今後の精神保健福祉の充実に向けた取り組みを進めていただきたいと思います。
また、委員の皆様にも事業の推進に一層のご協力をお願いいたしまして、議事を終了いたします。